

文字もじMOJIの世界

15. 明朝体デザインのルーツを求めて

小林 龍生*

横浜港の大桟橋近くには、横浜開港記念館と横浜開港資料館という、似たような名前の建物がある。どちらも、ちょっとレトロで素敵な建物だ。初めて訪れる人は、だいたい間違える。何度か通っていても、時に混乱する。開港記念館の方は、横浜開港50周年を記念して大正時代に建てられたもので、ジャックの塔でも有名。一方の開港資料館は、元々はイギリス公使館だった場所にあり、旧公使館の建物もまだ残っている。そして、この場所は、当時の江戸幕府とアメリカ合衆国との間で修好和親条約が結ばれたところとしても、夙に知られている。

この開港資料館で、さる7月6日に文字情報技術促進協議会主催で「横浜開港資料館“金属活字と明治の横浜”展示見学ツアーと小宮山博史氏による和文書体史講演」と題するイベントが開催された。

開港資料館では4月27日～7月16日、活字書体史研究家の小宮山氏のコレクションを中心に「金属活字と明治の横浜」と題する企画展が開かれた。この機会を捉えて、同協議会の会員会社の多くがお世話になっている小宮山氏に無理をお願いして、講演会を開催することになった。

小宮山氏の人徳あって、当日は

45人の参加者を得て、講演会場としてお借りした開港資料館講堂がほぼ満席という盛況だった。

「金属活字と明治の横浜」展

ぼくは、横浜在住ということあって、この企画展を機に開催された連続講座も受講したが、展示内容、講座内容も含め、日本の活版印刷技術黎明期の事情をリアルに感じられる素晴らしい内容だった。

それにしても、ぼくの浅薄な知識では、本木昌造やウィリアム・ギャンブルによる日本への活版印刷技術の導入が、上海や長崎とは深いかかわりがあることは漠然と理解していたが、横浜とのかかわりとなると、今ひとつピンと来ないところがあった。資料館でこの企画展を担当された石崎康子さんのお話でも、企画の端緒が、金属活字見本帳の世界的なコレクションを持つ小宮山さんがたまたま横浜市在住だった、というところにあったというのだから、この金属活字と開港期の横浜とのかかわりをどう描くかが、企画展示を構成する際の、最大の難問だったとのこと。

しかし、小宮山さんや石崎さんの苦労の甲斐あってか、出来上がった展示は、開港期の横浜が日本の印刷・出版文化に果たした役割

が、見事に伝わってくるものとなっていた。特に、ヘボン博士と博士の手による『和英語林集成』の編纂にかかる展示、それと、小宮山氏によるこの辞書編纂時期の、ヘボンとヘボンの編纂作業を助けた岸田吟香の上海に滞在してのまさに美華書館での入稿、校正作業の顛末を巡る講演は、ヘボンも吟香も共に横浜を拠点として活動していくだけに、横浜市民の一人としては、ちょっと誇らしい気持ちにさせられた。

連続講座の最終回で小宮山さんが話されたのは、ある意味では、まさにトリビアそのもののテーマ、即ち、『和英語林集成』編纂のために上海に滞在していたヘボン博士と岸田吟香が、いったい上海のどこに寄留していたか、という話題。吟香の日記『呉淞日記』とヘボンの『ヘボン在日書簡全集』から、上海滯在当時の個所をしらみつぶしに調べ上げて、そこから寄留場所を推測するというなかなかスリリングな試み。結果的には、だいたいこの辺り、というところまでは追いめたが、具体的な建物までは特定できなかった、というオチなのだが、その過程で、当時の上海の町並みや上海を経由して欧米と往来していた日本人との交流などが、リアルに感じられ、ああ、歴史を紐解く醍醐味とはこ

美華書館告白

啓者本館現有新鑄大小中國鉛字計六號出賣
每號印出字樣註明價目數目於左欲賜顧者一
見便明其第一號每磅計洋銀六角計數三十九
個第二號每磅計洋銀六角計數四十七個第三號
每磅計洋銀壹員計數一百零二個第四號每
磅計洋銀壹員貳角五分計數一百二十八個第
五號每磅計洋銀壹員八角計數三百個第六號
每磅計洋銀五員計數六百二十個另有第二號
鉛字本館業已用過與新字相彷較新字之價格
外公道每磅計洋銀五角計數四十二個倘蒙
士商賜顧者可請至本館面議可也
倘有來買東洋鉛字外國鉛字暨零星大小等鉛
字其價不在此例

我父在天者願爾名聖爾國臨
格爾旨得成在地如在天焉
我儕所需之糧今日賜我免
我儕諸負如我免負我者尤
母導我於誘惑乃拯我出於
惡蓋國也權也榮也皆歸爾
個九十二款計角六銀洋計磅每號一第
個二十四款角五銀洋計磅每號二有另

惡蓋國也權也榮也皆歸爾

我友天爾命堂願爾旨如侯
靖我如印今併呼我儕勞爾
爰於濱援叟天也匍廝侔太
涖惡燈難我日務併各嘆偏
囊勳我所之糧也爾歸焉廈
及瑋格成多輞匐主大厭厘

號四
五角二元一洋磅每錢八廿一百一數分五角八廿一
我父在天者頤爾名聖爾國臨格爾旨得威在
地如在天焉我儕所需之糧今日賜我免我儕
諸負如我免負我者尤母導我於誘惑乃拯我
出於惡蓋國也權也榮也皆歸爾爰世世亞孟
慈悲真古神可憐我罪人賜落來靈感化我
惡心我是無力量善事弗能行雖然改罰落求
天父賜福我許多罪愆欲求天父赦免救我出苦
楚_主_耶_蘇_靠_耶_蘇_功_勞_收我進天堂

我父在天者原爾名聖爾國無格爾旨今日
成在地如在天焉我儕所需而糧今日日
我免我儕諸負如我免負我者尤母遵也
於誘惑乃拯我出於惡蓋國也權也榮也
皆歸爾爰及世世亞孟

五我父在天廟廟名乞雨請臨格爾旨得成在地
六每號如在天萬我備所需之糧今日賜我免我備諸
七磅砾良如使我免我者尤母導我於謗惑乃拯我出
八銀一兩於惡黨也權也美也皆歸爾愛及世亞正
九慈悲真活神可憐我罪人賜落來聖靈感化我
十角惡心我是無力最羞事弟前行雖然改罰落求
十一天父賜福我許多罪愆天父赦免救我出苦
十二楚靠著王耶穌耶蘇再降收我進天堂耶
十三蘇功勞求聽我禱告

写真1 明治元（1868）年12月の『教會新報』に掲載された廣告

のようなものだったのかと、深い感銘を受けた。

明朝体成立の歴史

一方、協議会メンバー向けの講座は、企画担当者からのたっての希望もあり、明朝体成立の歴史を小宮山コレクションの活字見本を通して概観する、というこれまた贅沢なものとなつた。

題目は「明朝体漢字活字は誰が作ったのか」。この講演で小宮山さんが伝えたかったことは、ご本人の言葉に尽きよう。

「近代活版印刷術による明朝体」
漢字活字は、ヨーロッパで興った
東洋学と未教化地域へのキリスト
教布教を両輪として生まれた。東

洋学には対訳辞書が必要であり、直接伝道を禁止する清国では文書伝道のための聖書や小冊子が不可欠であった。ヨーロッパで開発された明朝体漢字活字が、いつ、どこで、どのような変遷をへて、清国と日本で使われるようになったのか。

東アジアで使われている明朝体漢字活字であっても、じつは世界史の大きなうねりの中で生まれたのだと理解していただけたら、わたくしの望みは充分に伝わったと思っている。」

小宮山さんの望みは、その豊富な資料と巧妙な語り口で、充分以上に伝わった。

委細は、とても伝えきれないが

豊富な資料の白眉は、ギャンブル時代の美華書館の活字見本と言えるだろう。明治元（1868）年12月の『教會新報』という雑誌に掲載された広告（写真1）。計6種類のサイズの異なる活字見本が組まれている。それも、明朝体活字見本の源流とも言える1804年フランス帝立印刷所と同じ「主の祈り」のテキストで、小宮山さんのお話によると、1号活字は英米のもの、2号はベルリンのものとギャンブル自身によるもの、3号がフランスのもので、4号が英米のもの、そして、5号が再びギャンブル自身によるもの。6号はいわゆるルビ活字。

当時の上海の美華書館には、そ

れこそ世界中で鋳造されたさまざまのサイズの活字が集まってきており、その活字がほぼそのまま日本にも渡ってきた。そして、その中でギャンブル自身が設計開発した5号活字が、その後の日本の明朝活字の源流となった。この一葉の活字見本が、明朝体を巡る洋の東西の大きなうねりの結節点として、燐然と歴史を画している。

この講演会には、横浜の老舗印刷会社大川印刷の6代目社長大川哲郎さんが駆けつけてくれた。大川印刷は、明治14(1881)年の創業。横浜崎陽軒のシュウマイ弁当の掛け紙の印刷を一手に引き受けていることでも有名。この企画展にも、全面的に協力し、今回、発掘された資料も少なからずあつたと聞く。中でも、大川社長自身

もその存在を知らなかったという、同社の創業当時の活字見本帳には、大日本印刷の秀英体と凸版印刷の源流にある築地書体の両方が掲載されている。近ごろ、大日本印刷は秀英体の平成の大改刻を行い、凸版印刷は文久体を開発した。そして、それぞれが、委曲を尽くした活字見本帳を用意している。

一連の展示と講演を耳目にしても、改めて、活字見本帳というものは、それ自体が時代とその精神を映す鏡なのだと想いを深くした。

当協議会では、現在、会員会社が開発販売しているフォントを横断的に掲載した書体見本帳の開発を試みている。このささやかな試みも、膨大な小宮山コレクションの驥尾(きび)に付いた小さな青蠅になれればと願っている。

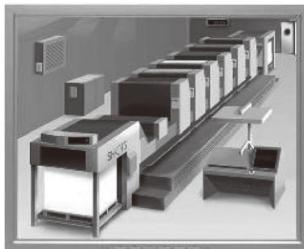
ところで。横浜には、イマジンフォントと濱明朝と、二つも都市フォントがある。横浜も捨てたもんじやないな。(つづく)



*KOBAYASHI, Tatsuo
文字情報技術促進協議会会長
tlk@kobash.com

Sinapse
Print Simulators

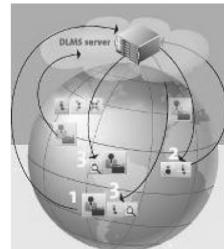
SHOTS 印刷機トレーニングシミュレーター



SHOTS 枚葉オフセット印刷機



校正と印刷の比較確認



クラウドサービス

印刷機・資材を使わず、繰り返し手軽に社内でトレーニングが行えます。

印刷障害の疑似体験と対処方法を効果的に学習できます。

指導者の育成、技能評価、社内教育システム構築に役立ちます。

操作・訓練方法 動画配信中

<http://www.youtube.com/user/hiroprinting>

その他 取扱い製品

デジタルインフォメーション社 カラーコントロール

PROVALUE

(株)プロバリュー

大阪府吹田市江坂 1-10-17 E

Tel 06-6330-0905

<http://www.provalue.co.jp/>